

IPv4アドレス在庫枯渇及びIPv6導入に向けた対応状況調査

1. 調査概要

目的

IPv4アドレスの在庫枯渇とNGN等におけるインターネットのIPv6接続サービス開始を控えたインターネット事業者の最新の対応状況の把握

概要

2011年2月下旬～3月上旬に、ISP 553社、iDC/ホスティング/ASP 232社に対しアンケートを送付し、それぞれ 87社(16%)、35社(15%)から回答

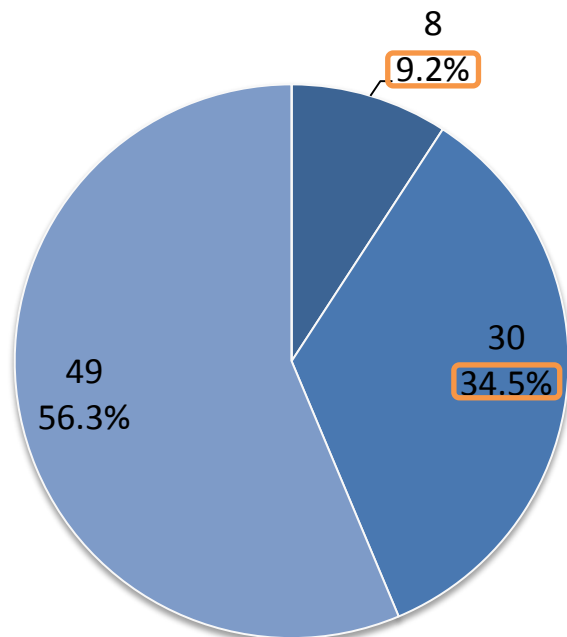
項目

IPv6サービスの提供状況・予定時期、IPv6サービスを提供するきっかけ等

2. (1) IPv6サービスの対応状況 (ISP)

- 「既に提供中」「提供予定(対応中)」を合わせると44%
- 5万契約以上のISPでは83%(契約者のシェアは全体の約75%)
- 1万契約未満のISPでは25%

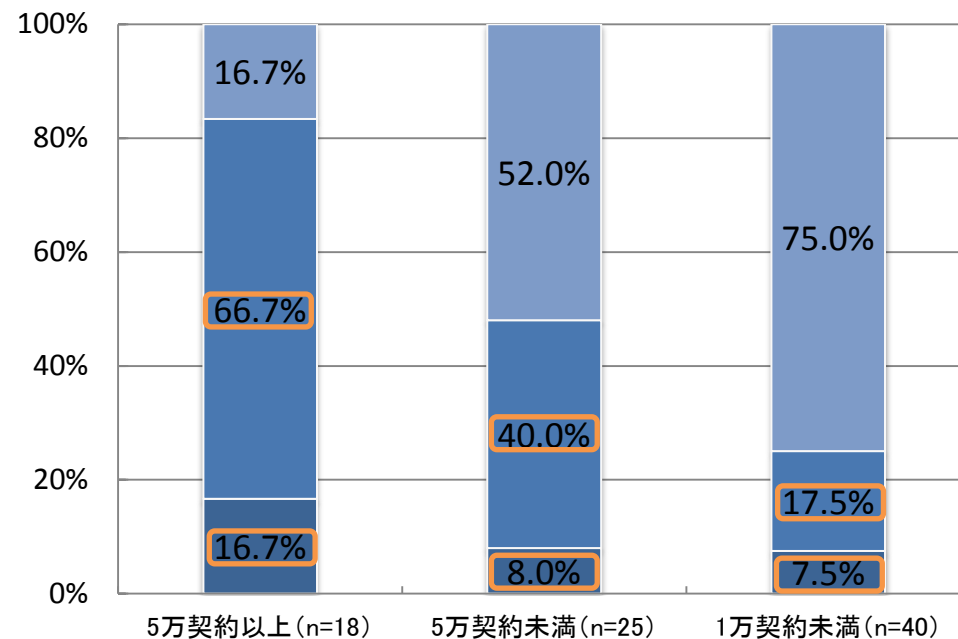
IPv6サービスの対応状況 (ISP・全体)



(n=87)

- 既に提供中(商用および実験サービス)
- 提供予定(対応中)
- 提供未定または未検討

IPv6サービスの対応状況 (ISP・規模別)



5万契約以上 (n=18) 5万契約未満 (n=25) 1万契約未満 (n=40)

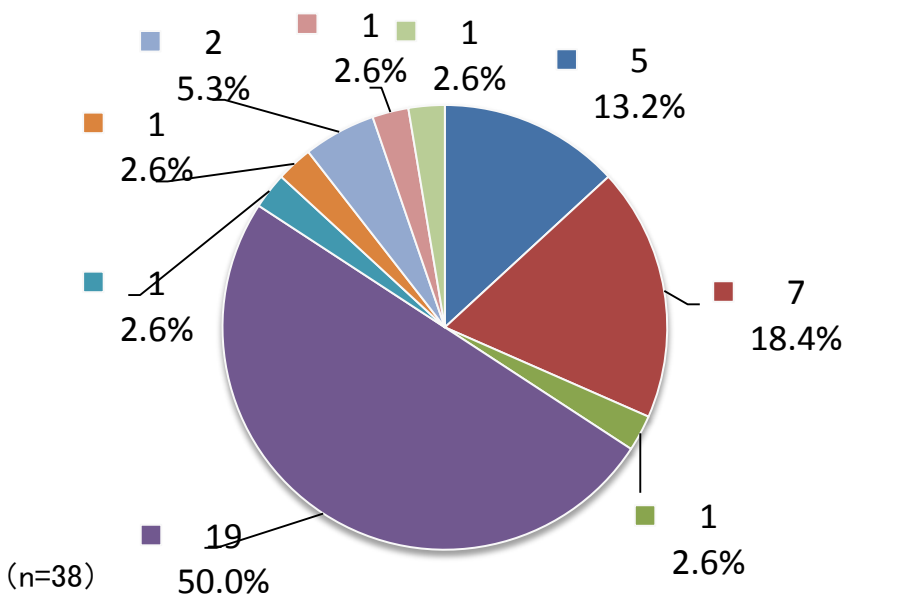
- 提供未定または未検討
- 提供予定(対応中)
- 既に提供中(商用および実験サービス)

2. (2) IPv6サービスの提供理由（「既に提供中」「提供予定」のISP）

「IPv4アドレス在庫枯渇対策」が主たる理由だが、規模により大きく相違

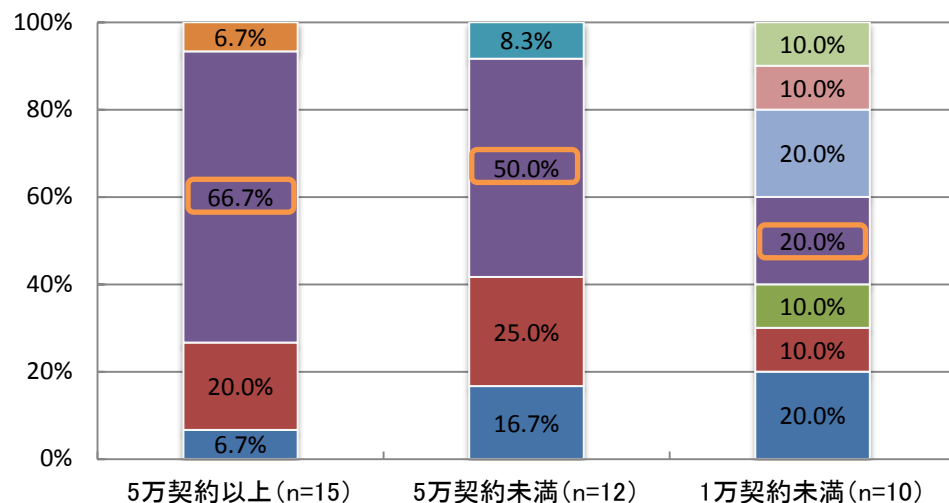
大規模ISPでは67%が「IPv4アドレス在庫枯渇対策」を挙げているのに対し、小規模ISPでは20%

IPv6サービスの提供理由 (ISP・全体)



- IPv6により新しいサービスの可能性、利用者ニーズが期待できるから
- 世界的にIPv6に移行する動きとなっているから
- アクセス網のIPv6対応の日程が明確になったから
- IPv4アドレスの在庫枯渇の対策が必要だから
- IPv4アドレス枯渇対応タスクフォースのアクションプランでIPv6移行が求められていたから
- 顧客からIPv6対応を求められたから
- 実証実験等のきっかけがあったから
- その他(自由記述)
- 無回答

IPv6サービスの提供理由 (ISP・規模別)



- 無回答
- その他(自由記述)
- 実証実験等のきっかけがあったから
- 顧客からIPv6対応を求められたから
- IPv4アドレス枯渇対応タスクフォースのアクションプランでIPv6移行が求められていたから
- IPv4アドレスの在庫枯渇の対策が必要だから
- アクセス網のIPv6対応の日程が明確になったから
- 世界的にIPv6に移行する動きとなっているから
- IPv6により新しいサービスの可能性、利用者ニーズが期待できるから

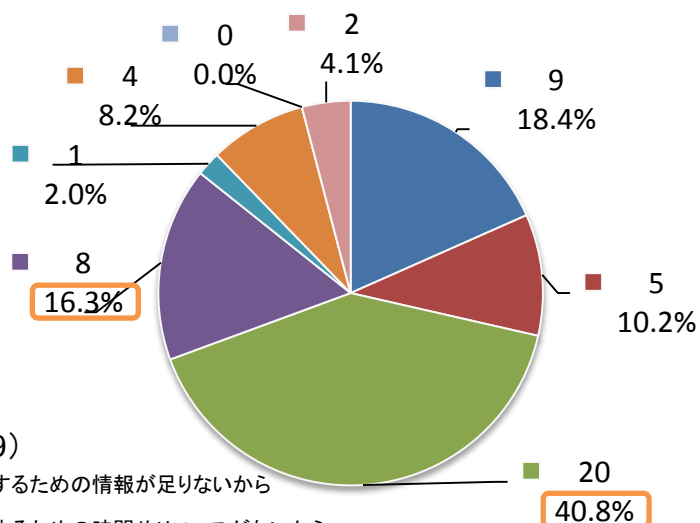
2. (3) IPv6サービス未提供の理由、提供のきっかけ(「提供未定又は未検討」のISP)

『提供未定・未検討の理由』は、「上位プロバイダ／ローミング先が未対応」(40%)、「他社動向を見て検討」(16%)等

『今後、提供するきっかけ』としても、67%が「上位プロバイダ／ローミング先、他社の対応」

➡ 大規模ISP、ローミング事業者等における対応進展とその状況の下位業者との共有が重要か

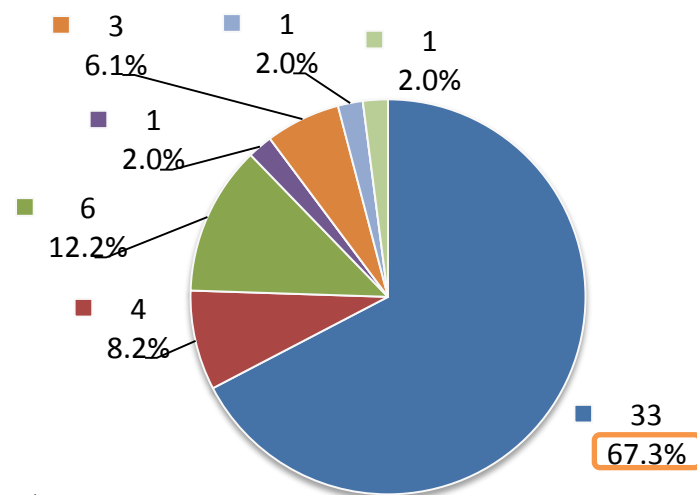
提供未定・未検討の理由 (ISP・全体)



(n=49)

- 検討するための情報が足りないから
- 検討するための時間やリソースがないから
- 上位プロバイダ／ローミング先でIPv6を利用していないため、自社のみで検討しても意味がないから
- 他社動向を見て考えるから
- ラージ・スケール・NATでの対応を考えているから
- 現在割り当てられているIPv4で当面は問題ないから
- その他(自由記述)
- 無回答

今後、提供するきっかけ (ISP・全体)



(n=49)

- 上位プロバイダやローミング先、他社の対応がはっきりしたら
- IPv4ではアクセスができないサービスが一定以上の数に達したら
- 顧客からの提供要求が一定レベルに達したら
- 提供しないことを理由に解約する顧客が一定レベルに達したら
- 何らかの資金的支援が得られたら
- 何らかの技術的支援が得られたら
- その他(自由記述)
- 分からない
- 無回答

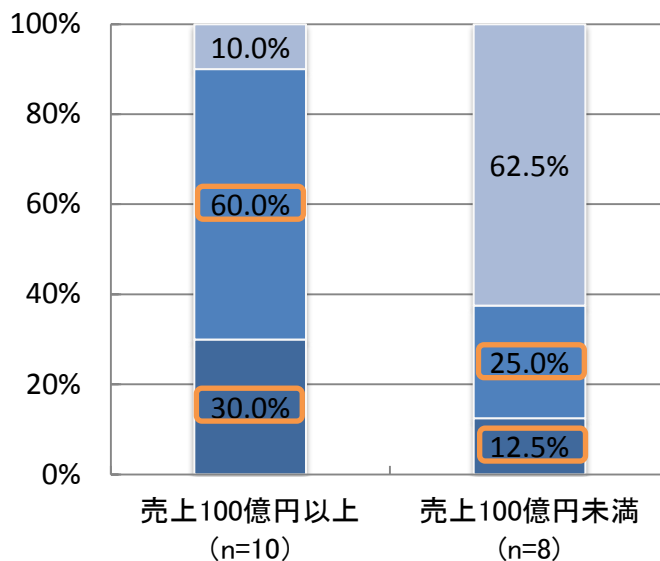
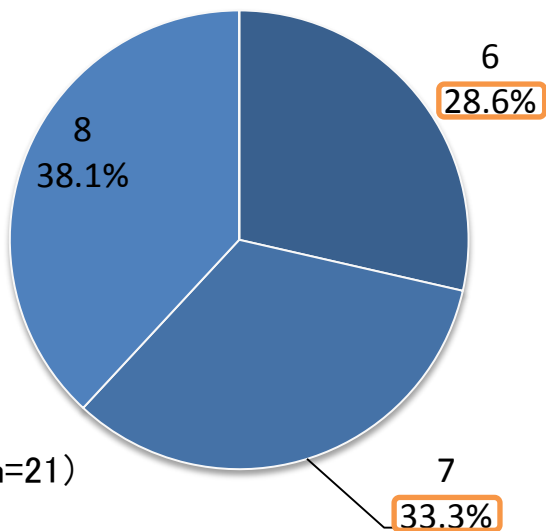
3. (1) IPv6サービスの対応状況 (iDC/ホスティング、ASP)

■ iDC/ホスティングは「既に提供中」(約30%)、「提供予定(対応中)」(約30%)を合わせると約60%

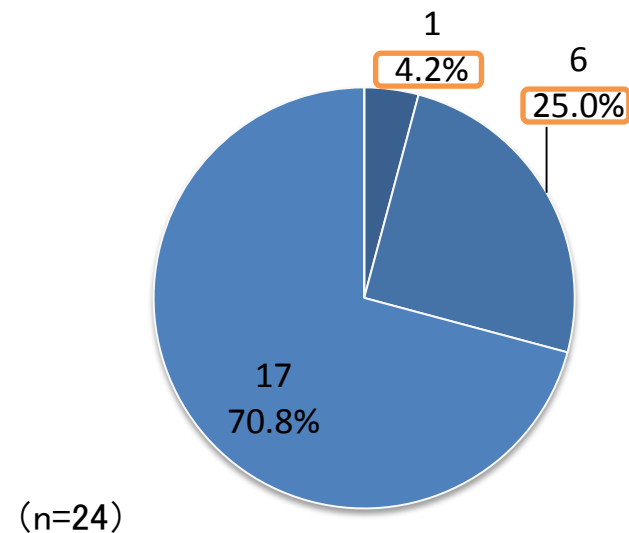
- ・ 売上高100億円以上のiDC/ホスティングでは90%
- ・ 売上高100億円未満のiDC/ホスティングでは37%

■ ASPは、「既に提供中」、「対応予定(対応中)」を合わせて約30%

IPv6サービスの対応状況 (iDC/ホスティング)



IPv6サービスの対応状況 (ASP)



- 既に提供中 (商用および実験サービス)
- 提供予定 (対応中)
- 提供未定または未検討

3.(2)IPv6サービス、提供のきっかけ(「提供未定又は未検討」のiDC/ホスティング、ASP)

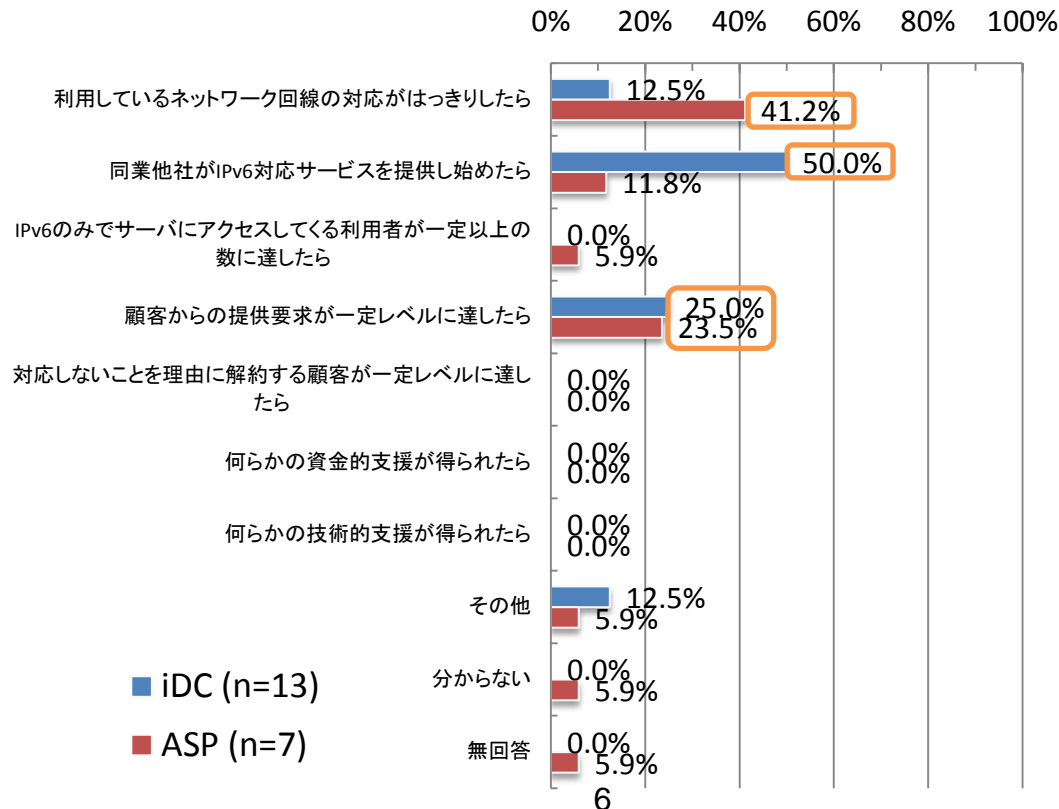
■ iDC/ホスティングでは「同業他社の提供状況」(50%)や「顧客の要求」(25%)

■ ASPでは「利用しているネットワークの対応」(41%)や「顧客の要求」(24%)



iDC/ホスティング及びASPのIPv6対応が進捗するには、ネットワーク基盤のIPv6対応の進展、IPv6によるアクセス増加に牽引されると想定される顧客要求の増大が重要か

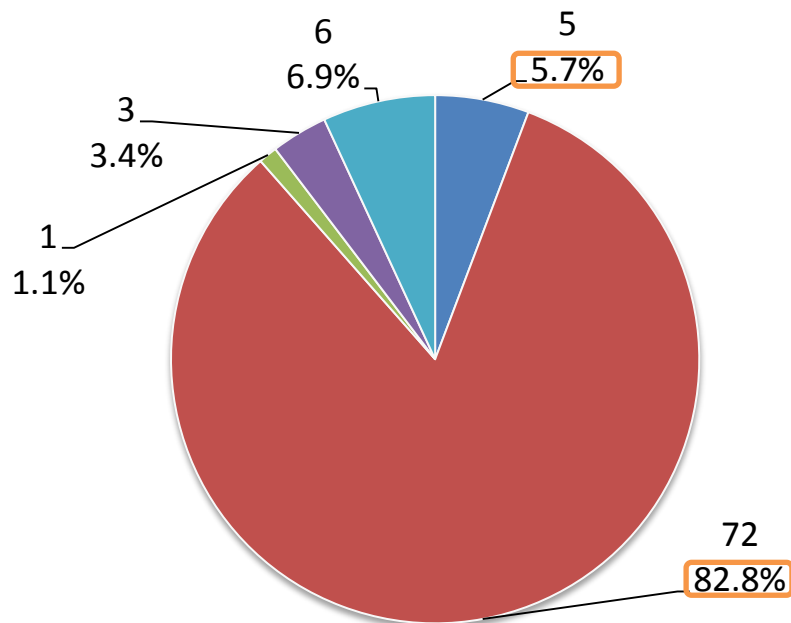
提供するきっかけ(iDC/ホスティング、ASP)



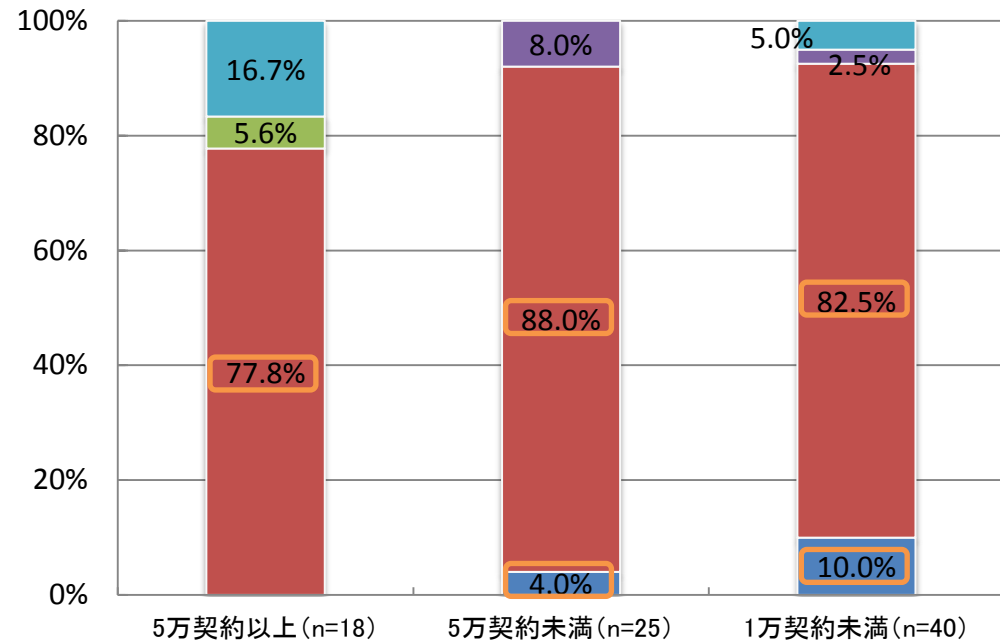
4. IPv6接続サービスの提供価格（ISP）

『IPv6接続サービスの価格』については、「IPv4接続サービスと同等」、「IPv4接続サービスより安価」との回答が88%

IPv6接続サービスの提供価格（全体）



IPv6接続サービスの提供価格（規模別）



- IPv4接続サービスより安価
- IPv4接続サービスと同等
- IPv4接続サービスより若干高価（最も標準的なプランで500円増未満）
- IPv4接続サービスより高価（最も標準的なプランで500円増以上）
- 無回答

- 無回答
- IPv4接続サービスより高価（最も標準的なプランで500円増以上）
- IPv4接続サービスより若干高価（最も標準的なプランで500円増未満）
- IPv4接続サービスと同等
- IPv4接続サービスより安価